

www.foro.jp

フリースクール フォロ

foro News Letter

みなさまのいろんなご支援のおかげで、フォロも3回目の春を迎えることができました。今春はフォロ開設以来はじめて、10人を超えるメンバーが中学を卒業しました。進学希望をした子は全員合格し、新しい道へ踏み出していきました。ある時期、学校と距離をおくことがあっても、いつからでもどんなかたちでも、学べる場を選んでいくことはできるし、そのための力も蓄えておけるものだと感じます。

これからも、変わらぬ応援をよろしくお願いします。

2004年5月1日
 特定非営利活動法人フォロ
 代表理事 花井紀子



ボイスタイムでアフレコをしているところ

My place 私のとおきおきの居場所

福本 麻衣(15歳・フォロ会員)

私が学校に行かなくなったのは、中2の中ごろからでした。

小学生のころからずっと、学校には行きたくなかったのですが、“学校は行って当然なところ”だと思っていました。だから、つらいことがあっても、がまんして行き続けていました。中学校に入学してからも、つらいことがあり、中2の中ごろになってやっと、母に「学校に行きたくない」と泣きながら言いました。内心、(反対されるかな)と思いましたが、今まで、つらい思いをしてきた私をずっと見ていた母が了解してくれました。

でも、「学校に行かないのは悪いことだ」という罪悪感があって、それでも学校には行きたくなかったのですごく悩みました。

そんなときに、『不登校について学ぶ』という講演会があり、それを母が聞きに行き、そこでフォロに出会いました。

フォロのことを母から聞いた私は、フリースクールってどんなところだろう、と思い興味を持ち、一度行ってみようと思いました。

体験入会をして、初めてフォロに入ったときに(なぜだかわからないけど、落ち着く)と思いました。最初のころは緊張して行きづらかったけど、いろいろな企画に出てみようと思って、『しゃべり場』や映画鑑賞に参加しました。みんなとしゃべってみて、学校の友だちに相談してもわかってくれないことも、フォロのみんなはわかってくれて、すごくうれしくて、いつのまにかフォロにすることが楽しくなりました。

私はフォロに行くようになってよかったと思います。フォロは、私にとって大切な居場所です。

最近のフォロは

好きなことをトコソ

「〇〇が好き！」小さい年齢の子どもたちの出す企画は、とにかく妥協を許しません。「大阪市営地下鉄デー」と銘打ったある日は、ひたすら地下鉄を乗り継ぎ、乗り換え、昼ご飯もおやつもホームで電車を見ながら……で、気がついたら5時間半が過ぎていました。「ラピート（という南海電鉄の特急車両）に乗るだけ」、「京阪と近鉄に乗るだけ」、という1日もありました。好きじゃないと、ただ苦痛なだけです（笑）。ある男の子の「どうしても住之江公園に行って、大きな砂場で遊びたい」企画は、数日のうちに、2回めを数えました。これからももっともっと、遊びを極めたいと思います。



ひたすら電車で…写真はラピート

いろんな学び、考える場

自分、家族、いじめ、将来……ときどき開く「フォロ・しゃべり場」の時間で今まで考えてみたテーマは、それぞれが1回きりでは話しきれない深い内容ばかりです。たくさん話したい人、じっくり聞くに徹する人、「この人はこんなことを考えているんだ、と気がつくことがあって新鮮だ」という人……。参加のありようは自由。そんななかで、今の自分に一番大切なことに気づき、考え、自然に吸収していくものなのだと感じます。



土笛づくりに挑戦

フォロでは、いま在籍しているメンバーの思いを大切にしたいと考えています。それで、数カ月、長いものだと1年以上に渡って続いてきた、英語や数学など教科の講座は、この年度末で一区切りをつけました。また新たに「〇〇を学んでみたい」という声が出てきたら、どういうふうにしてそれをやっていくか、やりたい人で相談して、講座が生まれることとなります。



ポップコーンと生ジュースでおやつ

不登校の経験を語る

3月には、大阪市の青少年会館が主催する「不登校を学ぶ」連続講座にフォロメンバーが招かれ、一般参加者に向けて自らの体験談を語ってきました。話をした2人の女の子は「いろいろ質問があれば、自分の気持ちを整理できると言って引き受けた」「もっと参加者と意見交換をしてみたかった」と言っています。不登校に関してまだまだ理解が足りない社会にあって、不登校を通し「生きること」の根元に向き合ってきた子どもたちの声を聞く機会を、ぜひ多く設けていただきたいと思います。



ゴミ処理工場を見学

プロジェクトの実行委員会

2月に野沢温泉へ4泊5日のスキー旅行に行ってきました。昨年のスキー旅行企画「プロジェクト・W (Project Winter)」の第2弾ということで「PW2」と名づけました。PW2は、前回の経験や反省点を活かして、かなり早くから実行委員会をつくり、約半年間かけて準備をしました。このPW企画では、「いかにして参加者を確保するか」に、とても苦労します。実行委員会の子どもたちは、アンケートを採ることにしました。アンケートからわかったことは「スキーをする人以外でも参加しやすい企画にしたら参加者が集まりやすいのではないか」ということでした。

しかし、このことに関しては、実のところ実行委員会のなかでも企画を進めるうえで意見が分かれました。「スキーをやりたいと思ってはじめて実行委員が、どうして、スキーをやらない人のことまで考えなければならないのか」「意見を言うのはいいけど、何か手伝ってくれるのか」といった声もありました。



た。それでも、やはり企画が成立しなければ、と準備を進めることになり、スキーができて観光や温泉が楽しめる野沢温泉を目的地にし、時期は「雪

だるま祭り」という野沢温泉のイベントがある時期を選びました。また、アンケートのなかには「夜行バスが苦手」という声もありました。費用を少しでも安くするために、夜行バスのツアーを選んだのですが、夜行バスでの移動が苦手な人も参加できるように、電車で移動できるプランも確保しました。

ときには、実行委員がミーティングに集まらず、なかなか準備が進まないこともありました。しかし、次第に、シーズンが近づくにつれ、やることが山積みになり緊張感が生まれ、「旅行会社への仮予約」「企画案内づくり」「参加者を集めるための呼びかけ」「申込状況確認」「保護者・参加者への説明会資料づくり」「説明会のプレゼンテーション」など、実行委員はおたがいに役割分担を決めてこなしていきました。

その結果、見事、企画成立人数が集まり、実行委員は一安心でした。

実行委員になった子どもたちが、困難なことがあってもこの企画を成功させたのは、やはり「やりたいからやる」という気持ちがあったからだと思います。(スタッフ・加藤直人)



自分の描いた絵が動いた！（アニメ講座）

好きなことを中心に

新しくはじまった活動のひとつ『ボイスタイム (声優の時間)』は、いわゆる“アフレコ”を毎回楽しんでいきます。台本はすべて子どもたちの手づくりで、いま人気のマンガからセリフを起こしたもの、ゲームが元になったもの、完全なオリジナル台本までさまざまです。それもほぼ毎回誰かが新作を書きあげてくるため、レパートリーは増え続けています。スタジオに出かけて本格的に録音をすることもあり、このときばかりは声の演技にも熱が入ります。アフレコ以外にも、好きなアニメの話で盛り上がり、マンガを読みふけったり、カラオケでアニメソングを熱唱したり（これも立派な活動です）、マイペースに活動しています。

さて、この『ボイスタイム』ですが、毎回どのくらいの時間活動していると思いますか？ 答えは……平均約5時間。「そんなに長時間も？」と驚かれた方も多いいと思います。自分たちが今やりたいこと、好きなことに長時間とことん取り組める。これは時間割の決まっていないフリースクールだからこそできることだと思います。もっとも、子どもたちは「時間が足りない～」と言っていますが…。

3月からは『アニメづくり』の講座もはじまりました。声優は恥ずかしいからちょっと……と思っている子どもたちも「アニメはつくってみたい!」と興味津々。ゆくゆくは自分たちでつくったアニメーションに、自分たちで声を入れて「フォロオリジナルアニメ」を発表できたらいいね、と話しています。ときには思ったようにいなくて悩むこともあるけれど、「好きなことならいくらやってもあきない!」フォロには、好きなことをやっている子どもたちの笑顔が今日もあふれています。(スタッフ・大浜裕美)

エッサッサ

ESSの時間

林 静香 (ボランティア)

約1年間、ESS(エッサッサ)という時間を週に一度、みんなとやってきました。「英会話」や「英語の授業」というよりは、英語とたわむれる、という感じの気軽すぎるくらいの時間です。最初のころに「この時間でしゃべれるようになるって思わんといてや」という言い訳(?)つきではじめた記憶があります。

ESSをはじめまでの半年くらいは、ボランティアとしてみんなと遊んだり話したりしていました。そんなときに英語をやりたいという声みんなから上がっていることを聞き、英語が好きなこと、少し海外経験があったことで、いつかそんな話ができたらいいなあと思っていたこともあり、何か協力できたら、と花井さんに伝えました。

洋楽や英語で書かれたレストランのメニューを使ったり、海外貧乏旅行での体験談を日本語と英語まじりで話したり。横道にそれることも多い時間でした。みんなの反応もすごく気になりましたし、途中で席を立たれると落ち込むこともありました。でも、みんなの協力で楽しい時間をずっと持っていたと思います。ESSの特徴は、確固たる目標がないことかもしれないかもしれません。私自身、海外で正しい英語をしゃべれなくても十分にコミュニケーションをとっている人たちを見ているので、英語を話すということに関して、基本的には「伝わればいい」と思っています。その気楽さ(いい加減さ?)が、参加しやすい雰囲気をつくっていたのかな、と思います。CDを持ってきてくれたり、「ハロー」なんて声をかけてくれるようになったみんなを見て、少しは英語が身近になったか

な、と感じています。

もちろん葛藤もたくさんありました。みんなに英語を好きになってほしいし、学ぶことの楽しさも知ってほしい。そのために

は週に数時間というのは本当に短し、宿題やテストのようなこともするほうがいいのではないかと。1年間続けて来てくれた子に、意味ある時間になっていたのか、というものです。そのたびに、みんな自身がやろうと思わなければ意味がない、ということ、私自身が宿題やテストで英語を身につけたんじゃないってところに落ち着くのですが。

また、みんなといて感じたことは、まちがうことにすごく敏感ということ。自分を振り返ってもそうですが、これほどまでに「まちがえられない」という意識が育っていることに驚きました。人数も少なく、カリキュラムも試験もないESSだからそこでゆっくりできるし、まちがったとしてもみんなで考えられる。そんな雰囲気は徐々にできていったかな、と思います(私もよくスペルをまちがえて迷惑かけました)。

「旅行に行けたらいい」「仕事で使いたい」。きっとそれぞれ英語に求める距離はちがうと思います。少なくとも言葉を学ぶことっておもしろい、ってことが今後も伝えられたらと思います。英語を通じてですが、みんなの考えや思いに触れられたこともすごくよかったです。



ESSでのようす

information

NPO会員・支援会員の方へ

NPO会員、支援会員にご加入くださった方、会員を継続してくださった方、応援、誠にありがとうございます。おかげさまで、子どもたちの居場所を維持させておくことができました。更新期の会員の方には、継続のお願いを同封させていただきました。これからも、フォロを支援していただけますよう、どうぞよろしく願いいたします。

◎郵便振替口座 00900-1-25564

加入者名 フォロ

譲ってください

- ・CDコンポ、ラジカセ(ボイスタイムで使うため)
- ・自転車の空気入れ
- ・タオル、台ふきんな

Foro News Letter 第7号

発行日 2004年5月1日

発行者 特定非営利活動法人 フォロ
〒540-0025 大阪市中央区徳井町1-1-3

TEL06-6946-1507 FAX06-6946-1577

mail to: info@foro.jp

URL <http://www.foro.jp>